



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2021.12.15
No.347

憧れの「文化料理」

博物館には、昭和九年（一九三四）に周智郡農会が出版した、『文化料理の栞』と題する活版の小冊子があります。

「文化料理」ということは、今ではほぼ使われません。小学館の『日本国語大辞典』は、「文化」の意味の一つとして、「（他の語の上に付いて）便利である、ハイカラ・モダンである、新式であるの意を表わす語。」文化籠「文化住宅」「文化村」など」と解説します。また、「文化住宅」の項には「大正から昭和にかけて流行した洋風を採り入れた住宅」の説明があります。これらのことから、大正期から昭和戦前期にあって、ハイカラ・モダンな洋風の料理を、「文化料理」と表現したことがうかがえます。

『文化料理の栞』は表に示すように、二四の料理について、それぞれのレシピを掲載しました。これらが「文化料理」の具体的なひとつひとつでした。

周智郡農会が「文化料理」の普及にあたったねらいは、『文化料理の栞』のはしがきに次のように記されています。

周智郡農会は昭和八年度経済更生施設の一端として、二月十八日より三日間に

亘り、小笠郡西郷村石山利作先生を招聘して、主として農産物を原料とする文化的料理講習会を開催したが、時節柄極めて有意義な講習会であった。

キーワードとなるのは「経済更生」です。このころ、各地の農村では、経済更生運動が展開しました。その目的は、昭和恐慌で疲弊した農村経済の立て直しでした。

しかしながら、周智郡の農村に「文化料理」を普及したところで、恐慌からの復興に確かな効果があるとは考えられません。『文化料理の栞』の評価は、もっと素直に考えるべきです。

当時は都会の生活と農村の生活との間に、明らかな格差がありました。こうした中、農村のひとたちは、新聞や図書のほか、親せきや知人からの通信などでもたらされる都会の情報に、強い関心を抱いたことであろう。都会の生活への強い関心が、「文化料理」への憧れとなり、やがてはこれを食べてみたい、作ってみたいという欲求となり、こうした欲求にこたえるために、周智郡農会は「文化的料理講習会」を開催し、『文化料理の栞』を出版して郡内の家々に配付したと考えられます。こうした動きは、直接的に経済の更生につながるわけではなく、文化の格差の平準化を図る取り組みの一つだったと評価したいものです。

（裏面につづく）

『文化料理の栞』が紹介する料理など

パンの部

- イースト（酵母液）ノ製法
- ホワイトブレッド（白パン）
- 赤パン
- ホールホワイトブレッド
- 味噌パン

茶菓子の部

- ドーナツ
- カスターラ（其の一）
- カスターラ（其の二）
- クッキース
- グリントルケーキ
- フレンチトースト
- トーモロコシの菓子
- ベークドビーケン
- ジャーマンフライドポテト
- フレンチフライドポテト
- ポテトチップス
- ポテトサンザイト

ソースの部

- マヨネーズソース
- シヤスーナウ
- フレンチソース
- クリームソース（ホワイトソース）
- マーマレード

果物の部

- ストロベリーショートケーキ
- 蜜柑水

パンの焼き方

『文化料理の葉』に掲載されたホワイトブレッド（白パン）の作り方は次のとおりです。

材料は、牛乳 1 合 5 勺、白絞油茶さじ 6 杯、塩茶さじ 1.5 杯、イースト 1 個、メリケン粉 150 匁、湯 1 合 5 勺です（1 匁は 3.75 グラム）。

はじめに、牛乳に温湯を注ぎ牛乳湯を作り、器に入れ、これに白絞油と塩とイーストを混合したものを加え 10 分攪拌し、次にメリケン粉 90 匁（全量の 6 割）をふるいながら加え、充分練って、残量のメリケン粉 60 匁を入れる。

さらに、メリケン粉を撒布した板上で 15 から 20 分練り、別に用意した練り鉢の内側に油を塗り、ここに入れて布で覆い、12 時間放置する。時間が経過したら、これを取り出して再び練り、油を塗ったパン型に入れ、2 倍の大きさに膨張した時、卵黄を表面に塗り、華氏 425 度（=218℃、西洋紙を 2 分間入れてきつね色となる程度）のオーブンで 50 から 60 分焼き、きつね色となった時に取り出し、空気の流通のよい所で冷やせば、フレッシュな良品を得る。

こうして「フレッシュな良品を得る」というのですが、果たして現実はどうでしょう。昭和 9 年の周智郡の一般家庭にオーブンが普及していたとは思えません。こうした事情を考慮すれば、『文化料理の葉』は、周智郡の農村部のひとたちが抱く都会の生活への憧れを、ただちに満足させることはなかったでしょう。

とはいえ、『文化料理の葉』の読者の中には、調理をあきらめることなく、既存の何らかの調理器具をオーブンの代用品として、ホワイトブレッドを試作したひともいたかもしれません。昭和初年の都市の生活と農村の生活の格差と、格差の平準化への取り組みは、具体的な資料に恵まれないため、なかなか想像の域を脱せませんが、地域の近代史研究の重要なテーマになるにちがひありません。

催し物のご案内

★テーマ展

「新収蔵品展」

開催中～ 1 月 10 日(月・祝)

今回の展示では、近年収集した古文書・絵図・民具などの歴史・民俗資料をピックアップしてご紹介します。

★第 1 回 はまはく講座

「新発見の遠州浜松城図を読む」

日 時：1 月 8 日(土) 10:00～12:00

会 場：浜松市博物館 講座室

申込方法：12 月 18 日(土)から

電話で浜松市博物館へ

(☎053-456-2208)

受付時間は 9:00～17:00

★小展示「道具たちの 100 年」

開催中～ 3 月 2 日(水)

★冬休み体験館

12 月 21 日(火)～28 日(火)、1 月 4 日(火)、5 日(水)

- ・木のおもちゃ絵付け体験・昔のおもちゃで遊ぼう
- ・缶バッジづくり・こま回し大会・クイズラリー
- ・ミニしめ飾りづくり：12 月 21 日(火)～28 日(火)

★昔のくらし体験館

1 月 29 日(土)、30 日(日)

- ・昔の道具体験(炭火アイロン・石臼・背負子など)
- ・昔の道具実演(火打石・行灯・石油ランプ)

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

1 月 8 日(土)、2 月 12 日(土)

14:00 から 30 分程度

会 場：蛸塚公園内旧高山家住宅

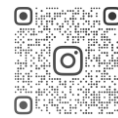
参加費：無料 ※事前申込み不要



※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、ホームページ、SNS でご確認ください。

※イベントは、変更・中止になる場合があります

左から
ホームページ
ツイッター
インスタグラム



新型コロナウイルス感染予防対策として、ご来館の皆様には以下のことをお願いしています。

- ・マスクの着用・館内での会話は控えめに
 - ・同行者以外との距離をあける
- ※体調がすぐれない場合は来館をご遠慮ください。

浜松市博物館

開館時間 9:00～17:00

12～2 月の休館日 12/20, 29～1/3, 11, 12, 17, 24, 31, 2/7, 14

〒432-8018 静岡県浜松市中区蛸塚四丁目 22 番 1 号

TEL 053-456-2208 FAX 053-456-2275

Eメール: hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP: <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/>